

令和7年度 大阪市立北稜中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 大阪市立北稜中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
		国語	数学	国語	数学	理科	
3年 4月17日	学校	131	60	60	3.6	5.7	541
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日	生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)					
		国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語	
3年 9月2日	学校	129	71.1	55.8	62.3	54.9	66.8	3.1	3.7	7.4	6.0	3.6
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年 1月14日	学校	148	72.8	53.2	64.9	58.2	63.3	4.1	3.0	6.1	1.6	3.5
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年 1月14日	学校	125	72.5	65.7	72.8	78.7	76.8	6.2	***	4.2	***	2.2
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	66.4	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日	生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】	
		(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	
3年 10月	学校	133	144.5	135.7	183.4	130.1
10月	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	121	24.19	25.24	44.76	52.52	79.45	8.50	191.84	18.59	39.06
	大阪市	—	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	—	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	—	19.98	20.05	47.52	47.58	56.16	9.19	165.92	10.97	45.83
	大阪市	—	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	—	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	8.97	166.64	12.43	47.58

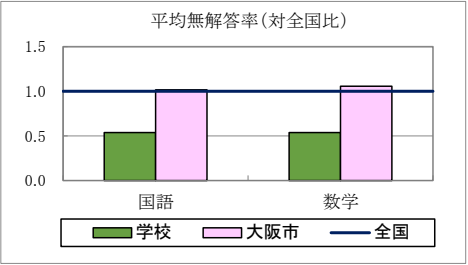
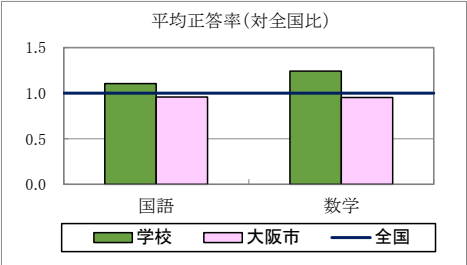
令和7年度 大阪市立北稜中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	60	60
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	3.6	5.7
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

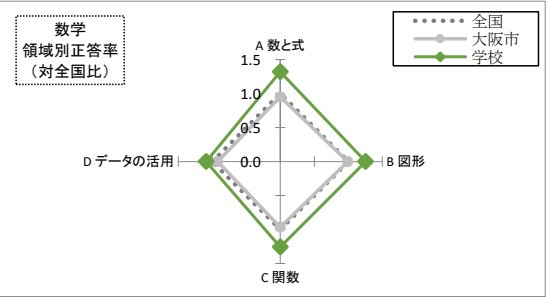
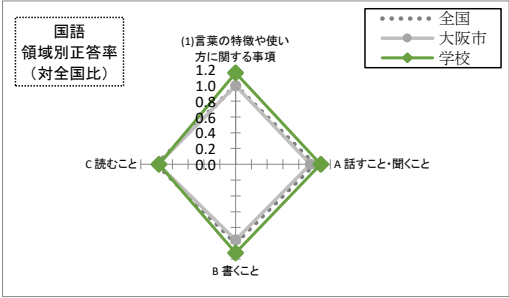
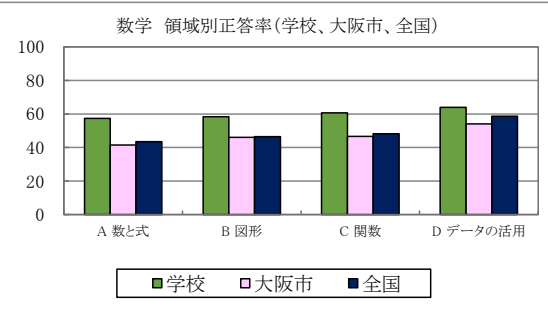
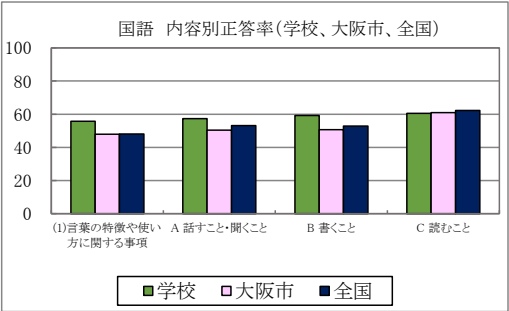


【 国 語 】

【 数 学 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	55.7	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0	/	/	/
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0	/	/	/
A 話すこと・聞くこと	4	57.3	50.4	53.2
B 書くこと	5	59.2	50.6	52.8
C 読むこと	3	60.5	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	57.4	41.4	43.5
B 図形	4	58.4	46.1	46.5
C 関数	3	60.6	46.6	48.2
D データの活用	3	63.9	54.0	58.6

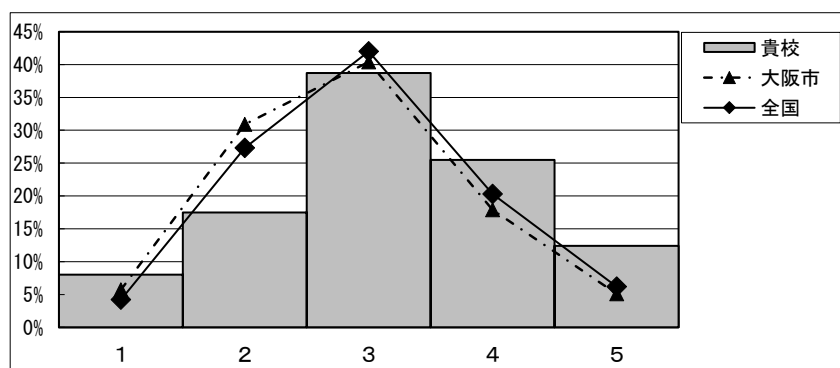
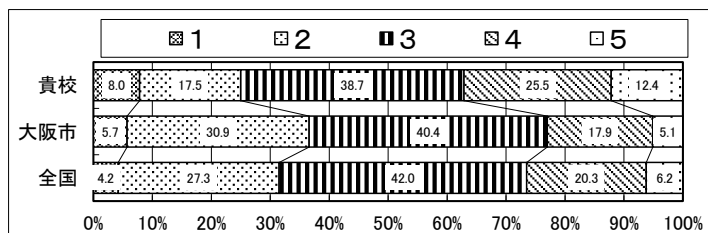


令和7年度 大阪市立北稜中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	541
大阪市	489
全国	503



令和7年度 大阪市立北稜中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

【国語】

<成果>

平均正答率は全国平均を5.7ポイント、大阪市平均を8ポイント上回り、本校生徒の確かな国語力が示された。特に「言葉の特徴」の領域では全国比+7.6ポイント、「知識・技能」の観点でも全国比+7.6ポイントと高い数値を記録した。記述式問題においても全国平均を9.1ポイント上回り、自分の考えを言葉で表現する力が着実に育まれていることがうかがえる。また、平均無解答率は全国平均の約半分にとどまっており、最後まで粘り強く取り組む姿勢が数字に表れている。

<課題>

「話すこと・聞くこと」「書くこと」の各領域においては、全国平均との差が他領域と比較して小さい。表現活動のさらなる充実を図り、習得した知識・技能を実際の場面で活用できる力を伸ばすことが求められる。

【数学】

<成果>

平均正答率は全国平均を11.7ポイント、大阪市平均を13ポイント上回るという顕著な成果が得られた。「数と式」「関数」をはじめすべての領域で全国・大阪市を大きく上回っており、特に「関数」は昨年度比でもさらなる向上が見られた。「思考・判断・表現」の観点では全国比+13.7ポイント、記述式問題では全国比+14ポイントと、単なる知識の定着にとどまらず、数学的に考え表現する力が高い水準で育っていることが確認できた。無解答率も全国平均の約半分であり、難問にもあきらめずに挑む粘り強さが学校全体に根付いている。

<課題>

高い水準を維持しつつも、成果が一部の生徒に偏ることなく、すべての生徒が自分の力で問題を解き切る経験を積み重ねることが引き続き重要である。個々の学習状況を丁寧把握し、誰一人取り残さない授業改善を継続する。

【理科（IRTスコア）】

<成果>

平均IRTスコアは541と、大阪市(489)を52ポイント、全国(503)を38ポイント上回った。スコアの中央値も526であり、一部の生徒が平均を引き上げているのではなく、学校全体として高い理科の学力が定着していることを示している。また、最上位のバンド5に属する生徒の割合が全国比+6.2ポイントであり、高い思考力を持つ生徒層の厚みも確認できた。

<課題>

CBT（コンピュータ型試験）形式への対応力を含め、科学的根拠に基づいて考察・表現する力を、すべての学年・すべての生徒においてさらに高めていく必要がある。今後も継続的な検証と授業改善のサイクルを維持する。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

5教科すべてにおいて、大阪府の平均点を大きく上回った。対府比較では、国語+6.9ポイント、社会+4.6ポイント、数学+8.4ポイント、理科+8.9ポイント、英語+13.6ポイントと、特に英語において顕著な成果が見られた。5教科合計の平均点の対府比は1.16であり、総合的な学力の高さが示されている。また、平均無解答率も全教科で大阪府平均の約半分にとどまっており、最後まで粘り強く取り組む姿勢が全教科を通じて確認できた。

<課題>

昨年度は4教科において大阪府平均を10ポイント以上上回っていたが、今年度は10ポイント以上上回った教科が1教科にとどまった。引き続き高い水準を維持しながら、各教科における学習指導のさらなる充実を図り、全体的な底上げに取り組む。

○大阪市英語力調査(GTEC)

<成果>

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の4技能すべてにおいて、大阪市の平均スコアを大幅に上回った。中でも「書くこと(ライティング)」のスコアは大阪市平均を37ポイント上回り、特に高い成果が得られた。英語を総合的に運用する力が、本校生徒に着実に育まれていることが確認できた。

<課題>

4技能のバランスのとれた向上を意識しながら、授業における言語活動のさらなる充実を図る。特に「話すこと(スピーキング)」については、日常的に英語を使う機会を増やし、実践的なコミュニケーション能力の育成に取り組む。

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

<成果>

1・2年生ともに、すべての教科において大阪府平均を上回った。1年生は国語+6.9ポイント、数学+8.4ポイント、英語+13.6ポイント、大阪市版チャレンジテストplusの社会+4.6ポイント、理科+8.9ポイントと、5教科すべてで府平均を大きく上回る結果となった。2年生も国語+8.3ポイント、社会+8.9ポイント、数学+9.9ポイント、理科+11.5ポイント、英語+11.5ポイントと、全教科で高い水準を示した。また、平均無解答率も全教科・全学年で大阪府平均を大きく下回っており、粘り強く問題に向き合う姿勢が低学年から着実に培われていることが確認できた。

<課題>

各教科において府平均を上回る成果が得られている一方、学年間・教科間での得点のばらつきも見られる。習得した知識・技能をより確実なものとするため、基礎・基本の定着と活用力の育成を両輪として、授業改善の取組を継続する。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

<成果>

反復横跳びにおいて、男女ともに大阪市・全国の平均を上回る結果を収めた。また、「体力テストの結果や運動能力の向上について自分なりの目標を立てているか」という意識面の調査では、「立てている」と答えた生徒が男子81.1%(全国75.0%)、女子74.2%(全国67.2%)と、男女ともに全国平均を大幅に上回った。体力づくりへの主体的な意欲が、本校生徒に着実に育まれていることが確認できた。

<課題>

反復横跳び以外の種目では、大阪市または全国の平均を下回る項目が見られた。体力の総合的な向上に向け、授業内外での運動習慣の充実が引き続き必要である。また、「保健体育の授業は楽しいと思いますか」という質問に対し、「楽しい」と回答した生徒の割合が男子58.1%に対し、女子は33.8%(大阪市35.1%)と低く、男女間に大きな差が見られた。女子生徒が主体的・肯定的に体育の授業に参加できる環境づくりと、指導内容・方法の工夫・改善が喫緊の課題である。

【今後に向けて】

今回の各調査結果から、本校生徒の学力・体力の両面にわたって多くの成果が確認できた。学力面では、全国学力・学習状況調査・チャレンジテスト・GTECのいずれにおいても全国・大阪府・大阪市の平均を大きく上回る結果が得られており、知識・技能の定着にとどまらず、思考・判断・表現する力が着実に育まれていることが示された。この成果を一過性のものとせず、日々の授業改善と学習習慣の定着を継続的に推進していく。一方で、表現・活用の場面での力のさらなる伸長や、体育における男女の意識差など、取り組むべき課題も明らかになった。これらの課題を真摯に受け止め、一人ひとりの生徒が「学ぶことの楽しさ」を実感できる授業づくりと、すべての生徒が安心して力を発揮できる学校環境の整備を、教職員一丸となって推進していく。

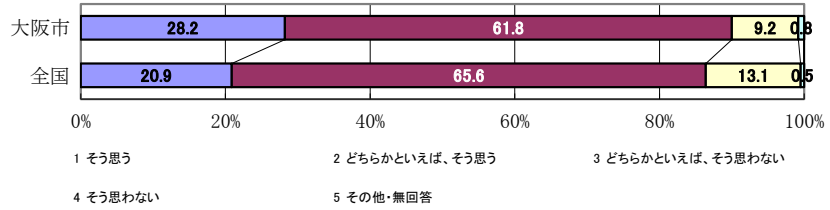
令和7年度 大阪市立北稜中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



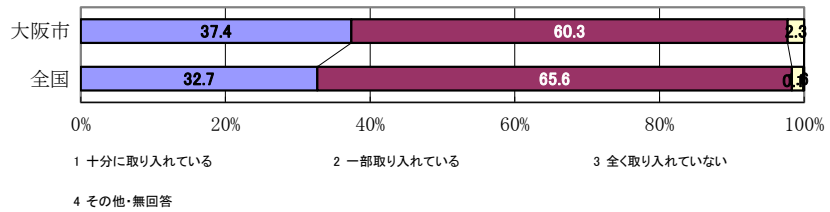
質問番号
質問事項
7
調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

学校 「**そう思う**」を選択



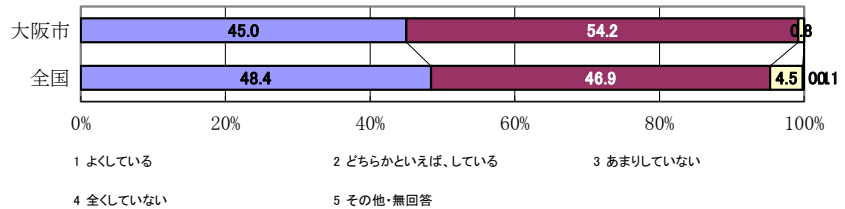
13
ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

学校 「**一部取り入れている**」を選択



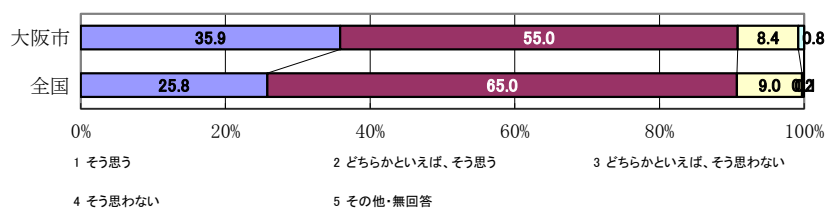
18
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「**よくしている**」を選択



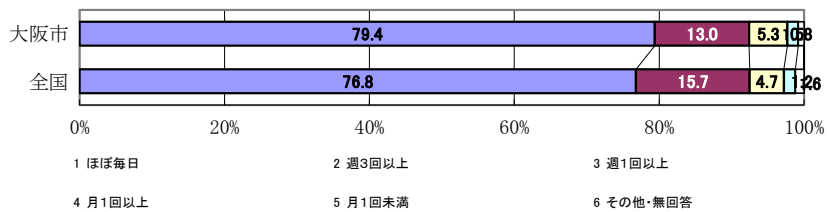
27
調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「**そう思う**」を選択



55
前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「**ほぼ毎日**」を選択

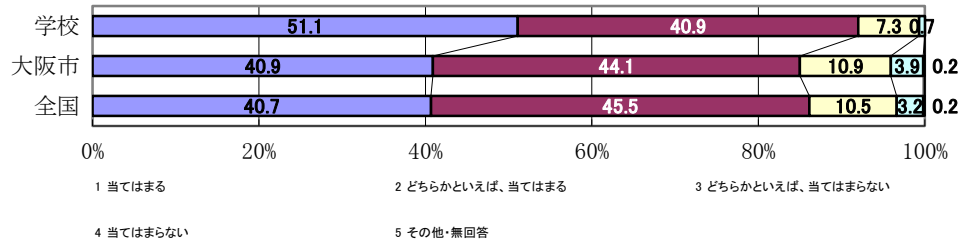


令和7年度 大阪市立北稜中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

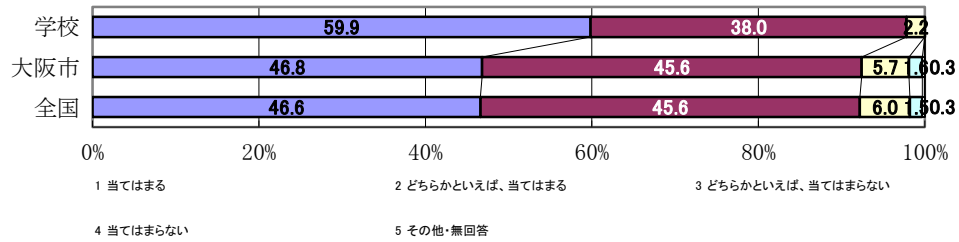
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

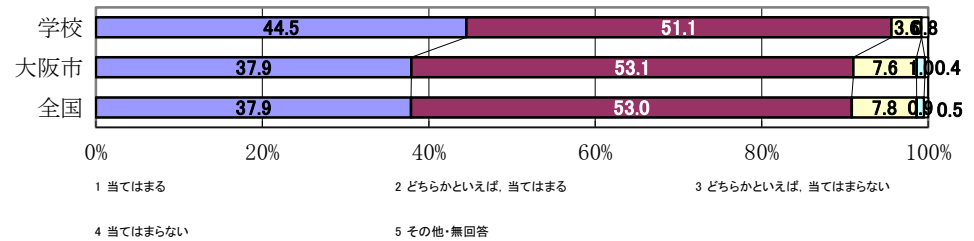
質問番号
質問事項
5
自分には、よいところがあると思いますか



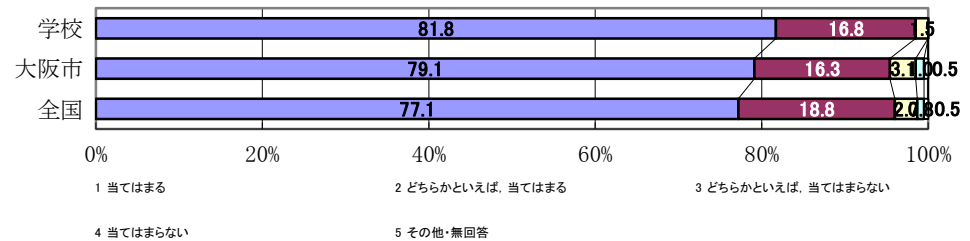
6
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



8
人が困っているときは、進んで助けていますか



9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



12
学校に行くのは楽しいと思いますか

